

第12章 ひとりぐらし高齢者の生活実態

本章では、ひとりぐらし高齢者（863人）の生活実態について、1 ひとりぐらし高齢者の概況、2 家族の状況、3 健康・世話の状況、4 介護予防健診、介護予防サービス、5 住宅、6 就業・経済、7 社会参加と意識、8 高齢者に対する必要な施策や支援の8つの側面からみる。

1 ひとりぐらし高齢者の概況

(1) ひとりぐらし高齢者の推移

高齢者世帯のうち、ひとりぐらし高齢者（単身世帯）の割合は2割弱。

ひとりぐらし高齢者の割合は、世帯類型別でみると、18.8%である。（図12-1）

過去調査（昭和55年～）からの推移をみると、ひとりぐらし高齢者の割合は、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続けており、男女別でみると、男性よりも女性の割合が高い傾向で推移している。（図12-2）

図12-1 世帯類型

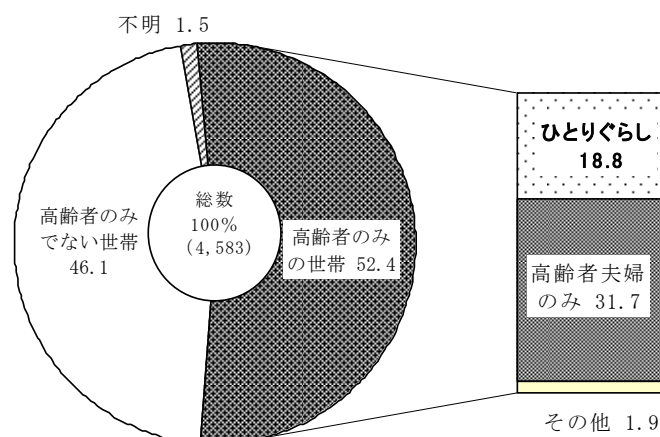
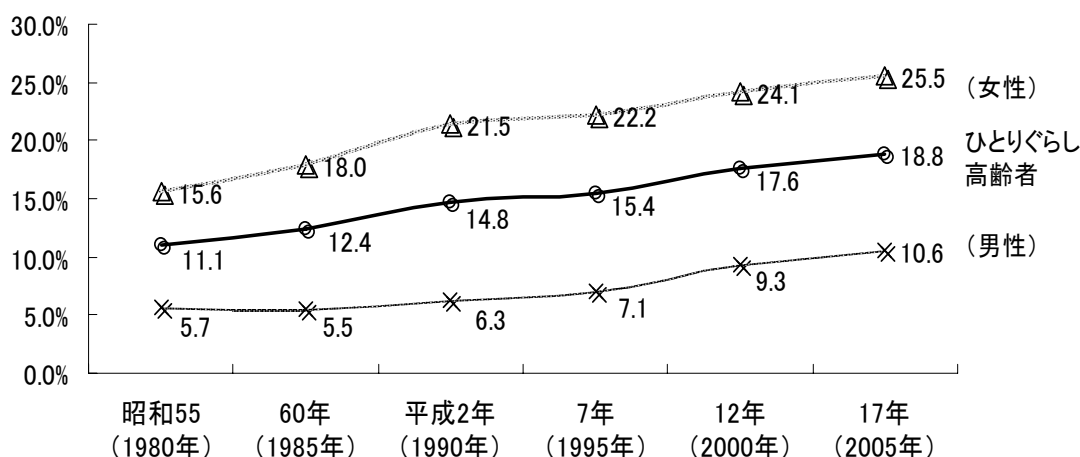


図12-2 ひとりぐらし高齢者（単身世帯）の割合の推移



資料：東京都福祉保健局「社会福祉基礎調査」

(2) 年齢階級

ひとりぐらし高齢者は高齢者全体と比較して、女性の後期高齢者の割合が高い。

ひとりぐらし高齢者の年齢階級は、前期高齢者が 48.5%、後期高齢者が 51.4%で『全数』（注）と比較すると後期高齢者の割合が高い。特に女性の後期高齢者の割合は 56.7%で、『全数』における女性の後期高齢者と比べると 10.4 ポイント高くなっている。（表 12-1）

表 12-1 年齢階級－性別、全数との比較

		総 数	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 歳 以上	（ 再 掲 ） 7 5 歳 以上	平 均
ひとりぐらし 高齢者	総数	100.0 (863)	21.2	27.3	25.3	15.4	10.8	<u>51.4</u>	75.5
	男	100.0 (213)	31.5	30.5	21.1	10.3	6.6	38.9	73.8
	女	100.0 (615)	17.2	26.0	27.8	17.4	11.5	<u>56.7</u>	76.1
全数	総数	100.0 (4,583)	27.9	29.1	20.8	13.5	8.7	<u>43.0</u>	74.4
	男	100.0 (2,052)	31.4	29.7	20.4	11.5	6.9	38.8	73.7
	女	100.0 (2,531)	25.0	28.6	21.2	15.0	10.1	<u>46.3</u>	74.9

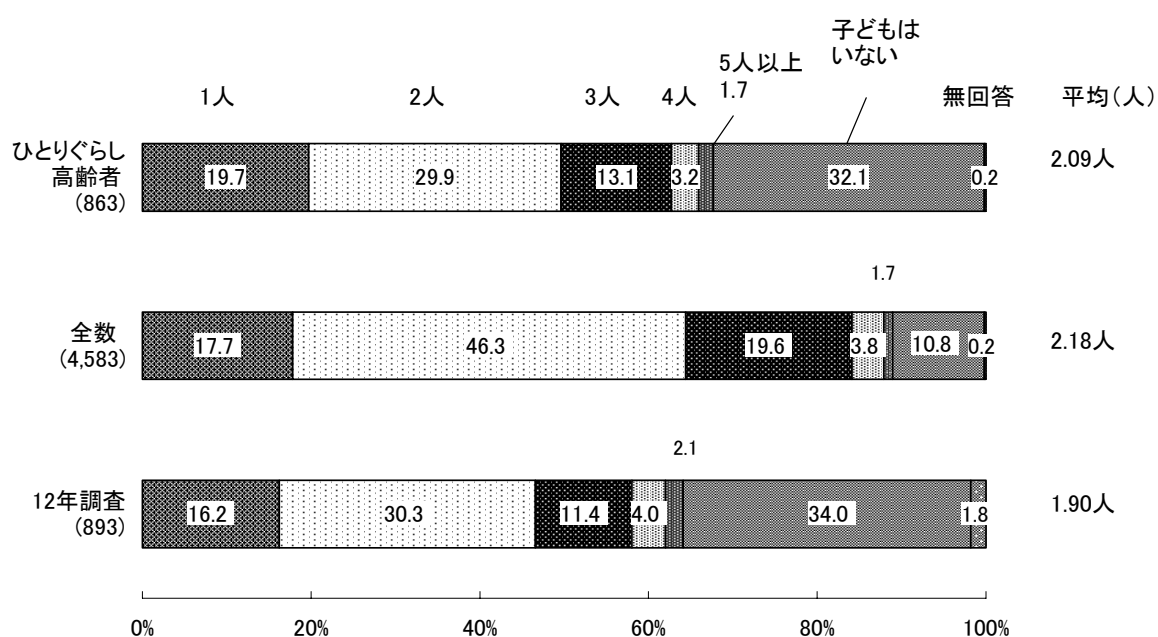
（注）『全数』とは今回調査における高齢者全体(4,583人)をいう。（ひとりぐらし高齢者も含む）

(3) 子どもの有無、人数

ひとりぐらし高齢者の子どもがいる割合は7割弱。

ひとりぐらし高齢者における子どもがいる割合は67.7%で、『全数』と比較すると21.3ポイント低い。平均人数は2.09人である。(図12-3)

図12-3 子どもの有無、人数－全数、12年調査との比較



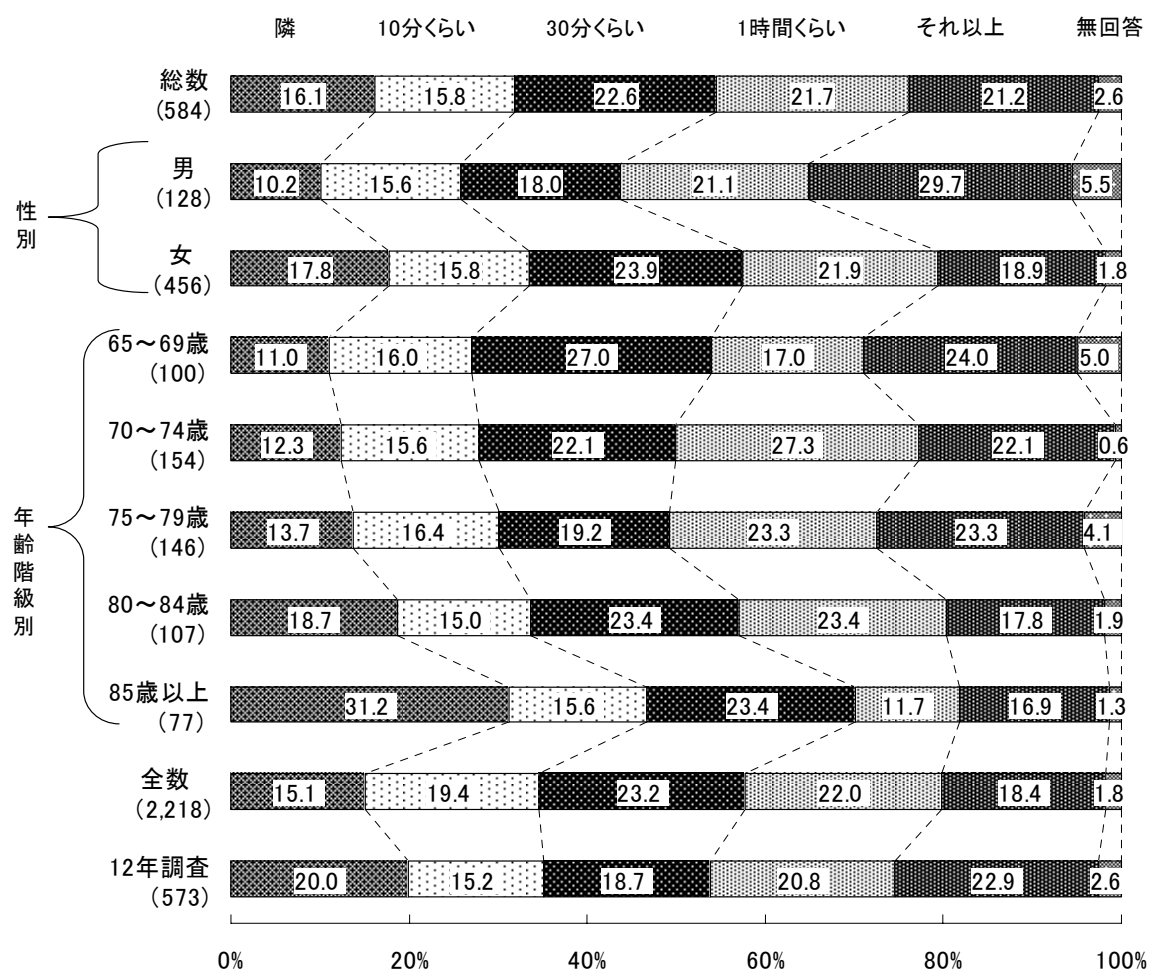
2 家族の状況

(1) 子どもとの距離

ひとりぐらし高齢者と一番近くにいる子どもとの距離は、年齢があがるごとに「隣」の割合が増加

子どもがいるひとりぐらし高齢者 584 人に、一番近くに住んでいる子どもの距離を尋ねたところ「隣」の割合は、年齢階級が上がるほどに割合が増加し、85 歳以上の割合は 31.2% と高くなっている。(図 12-4)

図 12-4 子どもとの距離—性、年齢階級別、全数、12 年調査との比較



(注)「全数」は、高齢者全体のうち子どもと別居している高齢者 2,218 人。

(2) 子どもとの同居意向

ひとりぐらし高齢者の子どもとの同居意向は、前回調査（12年調査）よりも「同居したい」割合が減少、「今のままで暮らしたい」割合が増加。

子どもがいるひとりぐらし高齢者に対し、子どもとの同居意向を尋ねたところ「今のままで暮らしたい」が64.4%と最も多い。（表12-2）

性・年齢階級別でみると「今のままで暮らしたい」は、女性の前期高齢者の割合が高く、7割強（71.9%）となっている。

動作能力類型別でみるとねたきり等の高齢者の8割（80.0%）が「今のままで暮らしたい」と回答している。

前回調査（12年）と比べると「同居したい」の割合は減少、「今のままで暮らしたい」の割合は増加している。

表 12-2 子どもとの同居意向－性・年齢階級、動作能力類型別、全数、12年調査との比較

		総 数	同 居 し た い	い 体 が 弱 は く な つ た ま ま で 同 居 し た い	居 ひ と り は 今 の ま ま で な つ た ら が 同	子 の 近 く に 住 み た い	今 の ま ま で 暮 ら し た い	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (584)	<u>8.0</u>	20.5	1.0	2.7	<u>64.4</u>	0.5	2.7
性・年齢階級別	男	100.0 (128)	10.2	18.8	1.6	3.1	61.7	－	4.7
	65～74歳	100.0 (100)	8.0	14.0	2.0	1.0	65.0	－	5.0
	75歳以上	100.0 (066)	7.6	13.6	3.0	4.5	66.7	－	4.5
	女	100.0 (456)	7.5	21.1	0.9	2.6	65.1	0.7	2.2
	65～74歳	100.0 (195)	6.3	12.5	－	6.3	<u>71.9</u>	－	3.1
	75歳以上	100.0 (261)	9.5	19.0	－	4.8	61.9	－	4.8
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (55)	5.5	10.9	－	－	<u>80.0</u>	1.8	1.8
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (16)	－	25.0	－	6.3	62.5	－	6.3
	軽い障害のある高齢者	100.0 (122)	10.7	23.8	0.8	1.6	61.5	－	1.6
	障害のない高齢者	100.0 (391)	7.9	20.7	1.3	3.3	63.2	0.5	3.1
全数		100.0 (2,218)	7.9	12.7	10.4	3.9	61.6	0.3	3.2
12年調査		100.0 (573)	<u>10.5</u>	22.9	0.5	3.7	<u>58.1</u>	2.1	2.3

3 健康・世話の状況

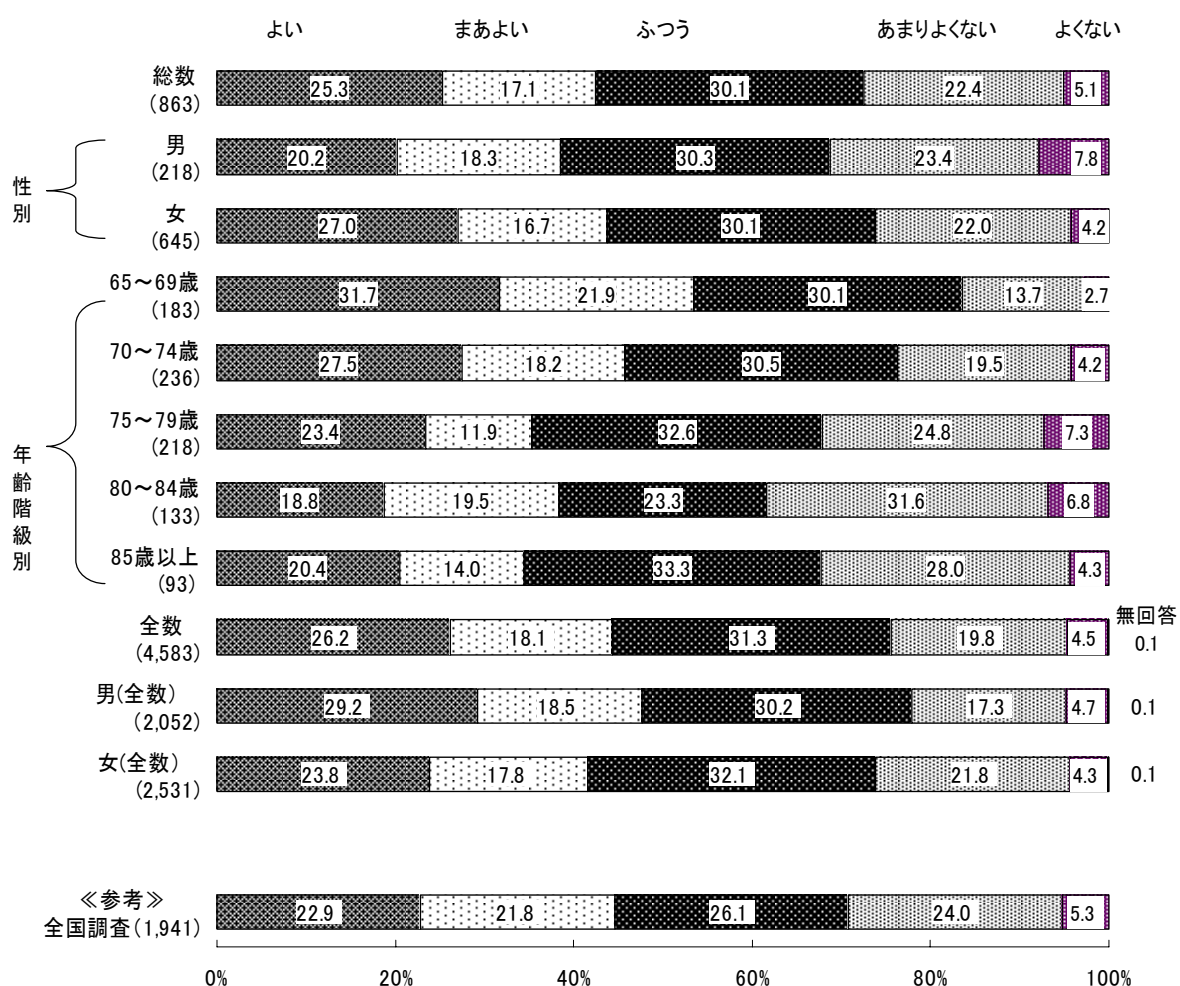
(1) 健康意識

健康状態を「よい」と意識している高齢者は、高齢者全体では男性より女性の割合が低い、ひとりぐらし高齢者では男性よりも女性の割合が高い。

ひとりぐらし高齢者に対して健康意識を尋ねたところ「ふつう」が30.1%で最も多く、次いで「よい」25.3%、「あまりよくない」22.4%と続いている。(図12-5)

性別でみると、「よい」の割合は男性(20.2%)よりも女性(27.0%)の方が高い。『全数』は男性より女性の割合が低く、『全数』と比べると「よい」の割合は男性が9ポイント低く、女性が3.2ポイント高くなっている。

図12-5 健康意識—性、年齢階級別、全数、全国調査との比較



(注1) 全国調査は、内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」(平成14年)

(2) 日常生活動作 (ADL)

ひとりぐらし高齢者は、日常生活動作 (ADL) のうち「歩行 (ひとりで不自由なく歩ける)」の割合が高齢者全体と比較して低い。

日常生活動作 (ADL) を「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排泄」の 8 項目の回答状況を表示したのが表 12-3 である。

表 12-3 日常生活動作 (ADL)

(単位 : %)

	A		B	
聴力 ※1	1 ふつうに聞こえる	88.3(86.8)	4 まったく(ほとんど)聞こえない	0.2(0.3)
	2 大きい声で話せば聞こえる	10.0(11.0)		
	3 耳元で大きい声で話さないと聞こえない	1.5(1.9)		
視力 ※2	1 ふつうに見える(本が読める、テレビを不自由なく見ることができる)	87.8(88.9)	3 1メートルぐらいの距離に近づかないと誰であるかわからない	1.4(1.8)
	2 本が読みにくい、テレビの画面がはっきり見えない	10.1(8.9)	4 まったく(ほとんど)見えない	0.6(0.3)
意思伝達 ※3	1 自分の意思を相手に伝えることができる	98.6(97.0)	3 伝えられないことのほうが多い	0.6(1.1)
	2 伝えられることのほうが多い	0.8(1.7)	4 伝えることがまったく(ほとんど)できない	0.0(0.2)
歩行 ※4	1 ひとりで不自由なく歩ける	79.8(84.2)	3 手を貸してもらうなど一部介助を必要とする	4.2(3.7)
	2 時間をかければ介助なしにひとりで歩ける	14.7(10.3)	4 全面的な介助を必要とする	1.3(1.8)
食事	1 ひとりで問題なく食べられる	97.3(96.8)	3 おかずを刻んでもらうなど一部介助を必要とする	0.8(0.7)
	2 時間をかければ介助なしにひとりで食べられる	1.7(2.0)	4 全面的な介助を必要とする	0.1(0.4)
着替え	1 ひとりで問題なくできる	94.9(94.3)	3 そでを通してもらうなど一部介助を必要とする	1.2(1.6)
	2 時間をかければ介助なしにひとりで行える	3.6(3.1)	4 全面的な介助を必要とする	0.3(1.0)
入浴	1 ひとりで問題なくできる	90.7(91.9)	3 体を洗ってもらうなど一部介助を必要とする	2.2(2.2)
	2 時間をかければ介助なしにひとりで行える	5.6(3.4)	4 全面的な介助を必要とする	1.5(2.3)
排泄	1 ひとりで問題なくできる	95.0(95.0)	3 便器に座せてもらうなど一部介助を必要とする	0.8(1.0)
	2 時間をかければ介助なしにひとりで行える	3.9(3.0)	4 全面的な介助を必要とする	0.2(0.9)

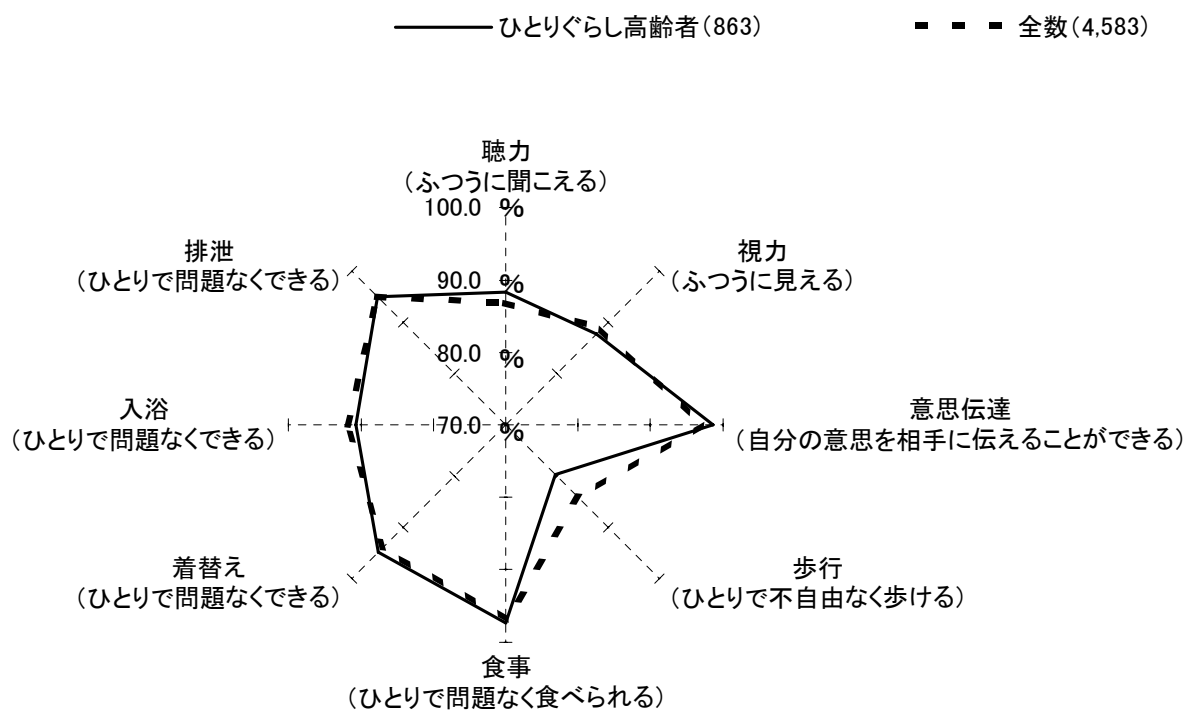
(注 1) ()内は全数 4,583 人の割合である。

(注 2) A・B 欄は「動作能力類型」(p41 参照)を作成するための分類である。

(注 3) ※1～4 の注意事項は p35 を参照。

下の図 12-6 は、表 12-3 の各項目で「1」と答えた、ADL に問題のない高齢者の割合を示したものである。『全数』と比べるとひとりぐらし高齢者は「歩行」（ひとりで不自由なく歩ける）の割合が低いのが目立つ。

図 12-6 ADL に問題のない高齢者の割合－全数との比較



(3) 動作能力類型

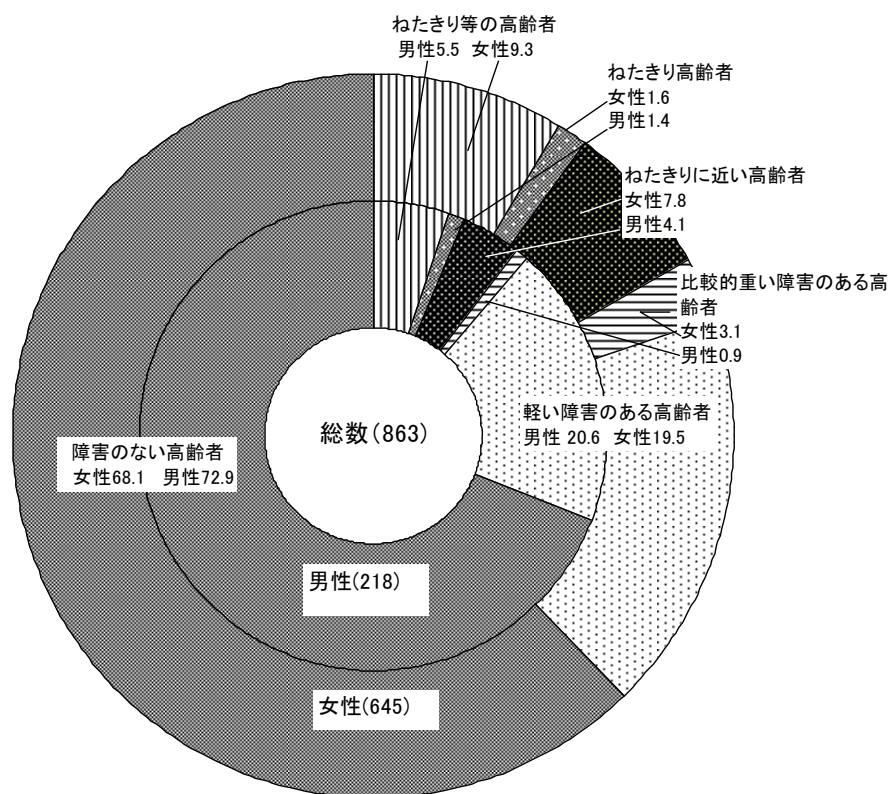
障害のないひとりぐらし高齢者は、女性よりも男性の割合が高い。

動作能力についてみると、「障害のない高齢者」が 69.3% で最も多い。(表 12-4)
性別でみると「障害のない高齢者」は、女性よりも男性の割合が高い。(図 12-7)

表 12-4 動作能力類型一年齢階級別、全数との比較

	総 数	ね た き り 等 の 高 齢 者	ね た き り 高 齢 者	高 ね た き り に 近 い 高 齢 者	の 比 較 的 重 い 障 害 の あ る 高 齢 者	高 軽 い 障 害 の あ る 高 齢 者	者 障 害 の な い 高 齢
総数	100.0 (863)	8.3	1.5	6.8	2.5	19.8	69.3
65～74歳	100.0 (419)	2.9	0.7	2.1	0.1	13.8	82.1
75歳以上	100.0 (444)	13.5	2.3	11.3	3.8	25.5	57.2
全数	100.0 (4,583)	8.3	1.9	6.4	2.0	17.7	72.0

図 12-7 動作能力類型－性別



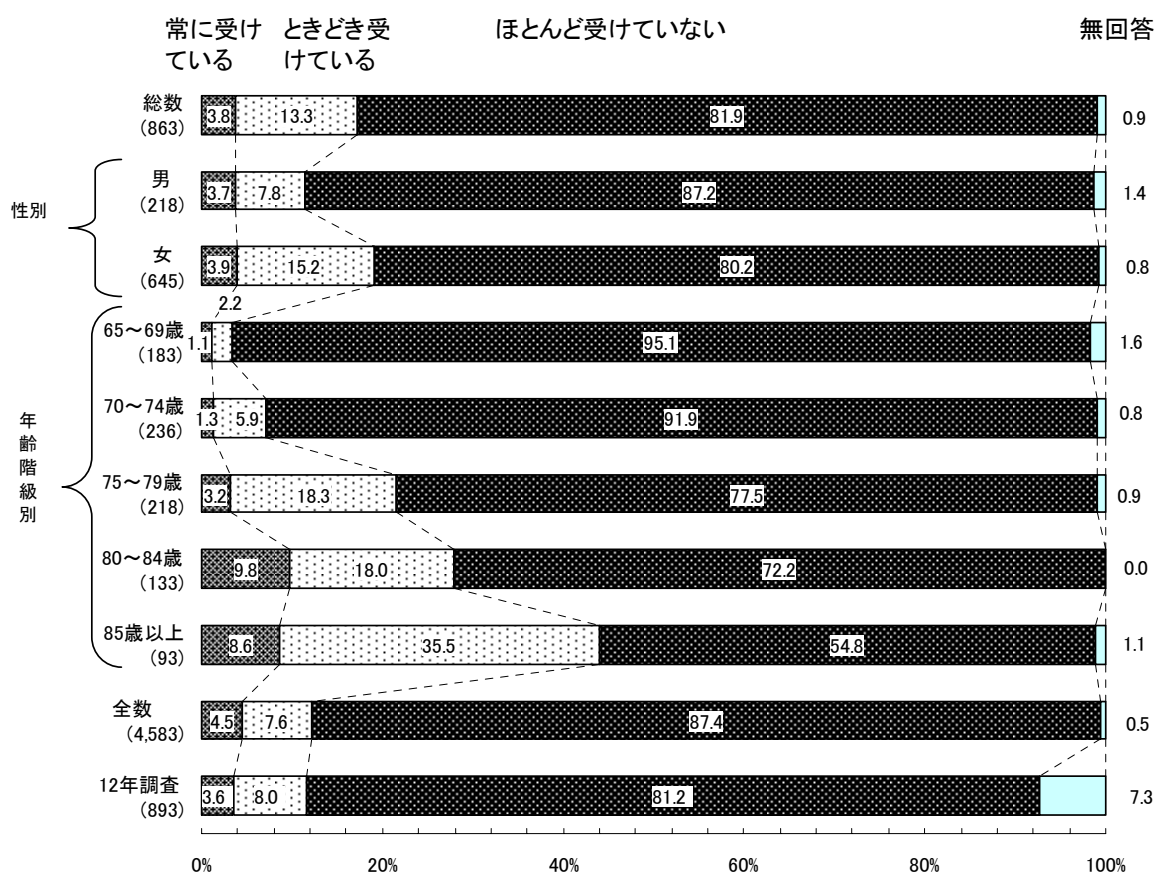
(注) 動作能力類型は、p 41 を参照。

(4) 世話の状況

前回調査（12 年）よりも「ときどき世話を受けている」ひとりぐらし高齢者の割合が増加。

日常生活での世話の必要の有無は、「ほとんど受けていない」の割合が 8 割強である。
性別でみると「ときどき受けている」は、男性よりも女性の割合が高い。（図 12-8）
前回調査（12 年）と比べて「ときどき受けている」割合が 5.3 ポイント増加している。

図 12-8 日常生活での世話の有無一性、年齢階級別、全数、12 年調査との比較



(5) 世話を主にしている人

ひとりぐらし高齢者の世話をしている人は、ホームヘルパーの割合が高く 65%

ひとりぐらし高齢者の世話を主にしている人（148 人）は、「ホームヘルパー」の割合が 64.9%と最も高く、前回調査(12 年)よりも 17.3 ポイント高くなっている。（図 12-9）

性・年齢階級別でみると男女ともに後期高齢者は「ホームヘルパー」が主に世話をしている割合が高い。（表 12-5）

図 12-9 世話を主にしている人

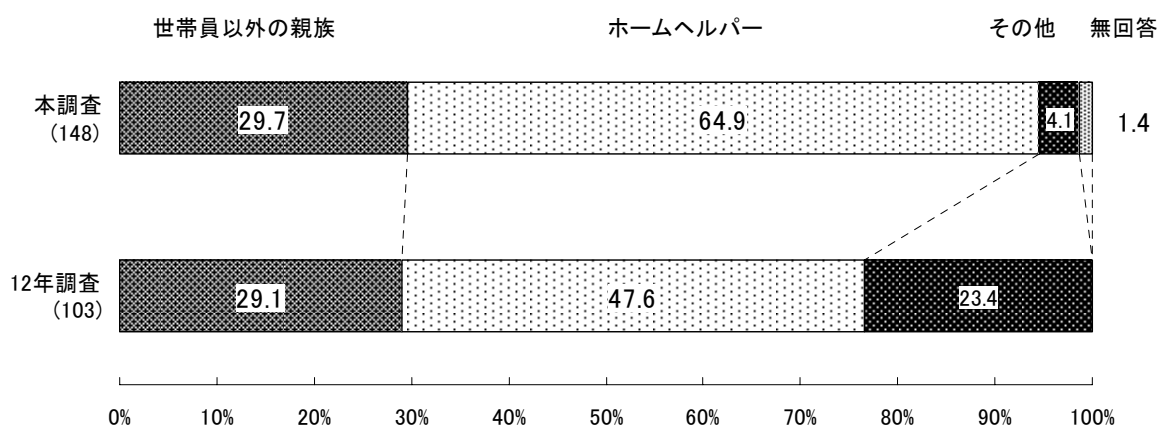


表 12-5 世話を主にしている人—性・年齢階級別

		総数	の世帯員以外	ホームヘルパー	訪問看護師	その他	無回答
総数		100.0 (148)	29.7	64.9	0.7	3.4	1.4
性・年齢階級別	男	100.0 (25)	24.0	68.0	—	4.0	4.0
		65～74歳	100.0 (4)	—	50.0	—	25.0
		75歳以上	100.0 (21)	28.6	<u>71.4</u>	—	—
	女	100.0 (123)	30.9	64.2	0.8	3.3	0.8
		65～74歳	100.0 (19)	42.1	47.4	5.3	5.3
		75歳以上	100.0 (104)	28.8	<u>67.3</u>	—	2.9

(6) 世話を主にしている親族

ひとりぐらし高齢者の世話をしている親族は、娘（配偶者あり）の割合が最も高く 4 割弱。

ひとりぐらし高齢者における、日常生活で世話が必要な 44 名に対し、世話を主にしている親族は「娘（配偶者あり）」が 38.6%と最も多く、次いで「息子の配偶者」22.7%と続いている。（表 12-6）

動作能力類型別でみると、ねたきり等の高齢者の 39.1%は「娘（配偶者あり）」が世話を主にしている。

表 12-6 世話を主にしている親族－性、年齢階級別、12 年調査との比較

		総数	息子 (配偶者あり)	息子 (配偶者なし)	娘 (配偶者あり)	娘 (配偶者なし)	息子の配偶者	その他
総数		100.0 (44)	9.1	4.5	38.6	4.5	22.7	20.5
性別	男	100.0 (6)	16.7	－	33.3	16.7	33.3	－
	女	100.0 (38)	7.9	5.3	39.5	2.6	21.1	23.7
年齢階級別	65～74歳	100.0 (8)	12.5	12.5	25.0	－	－	－
	75歳以上	100.0 (36)	8.3	2.8	41.7	5.6	25.0	16.7
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (23)	13.0	－	39.1	8.7	21.7	17.4
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (4)	－	－	25.0	－	25.0	50.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (15)	6.7	13.3	40.0	－	20.0	20.0
	障害のない高齢者	100.0 (2)	－	－	50.0	－	50.0	－
12年調査		100.0 (30)	20.0	－	50.0	－	13.3	16.7

4 介護予防健診、介護予防サービス

(1) 介護予防健診の受診意向

ひとりぐらし高齢者では介護予防健診の受診意向について、女性は積極的に受診したい割合が最も高く、男性は受診したいと思わない割合が最も高い。

ひとりぐらし高齢者のうち要介護認定で要介護度 2～5 の認定を受けている者を除く 836 人に対し、区市町村で行われる介護予防を目的とした健康診断の受診意向を尋ねたところ、「積極的に受診したい」が最も多く 26.3%、次いで「受診したいと思わない」が 22.4%となっている。（表 12-7）

性別でみると女性は「積極的に受診したい」割合が最も高く、男性は「受診したいと思わない」割合が最も高くなっている。

表 12-7 介護予防のための健診の受診意向－性、年齢階級別、全数との比較

		総 数	積 極 的 に 受 診 し た い	診 あ ま り し て も よ い 進 ま な い が、 受	す は ま だ 健 康 で あ り、 受 診	受 診 し た い と 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (836)	<u>26.3</u>	17.5	16.9	<u>22.4</u>	9.7	7.3
性 別	男	100.0 (213)	21.1	15.5	16.9	<u>28.6</u>	12.7	5.2
	女	100.0 (623)	<u>28.1</u>	18.1	16.9	20.2	8.7	8.0
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (182)	22.5	15.9	22.0	18.1	11.0	10.4
	70～74歳	100.0 (233)	28.8	17.6	18.9	18.5	7.7	8.6
	75～79歳	100.0 (212)	30.7	18.9	14.6	24.5	7.5	3.8
	80～84歳	100.0 (123)	26.8	14.6	13.0	26.8	11.4	7.3
	85歳以上	100.0 (86)	16.3	20.9	11.6	30.2	15.1	5.8
全数		100.0 (4,376)	28.1	18.4	20.7	17.8	8.6	6.4

（注）『全数』は、高齢者全体のうち、要介護認定で要介護度2～5の認定を受けている者を除く4,376人。

(2) 介護予防サービスの参加意向

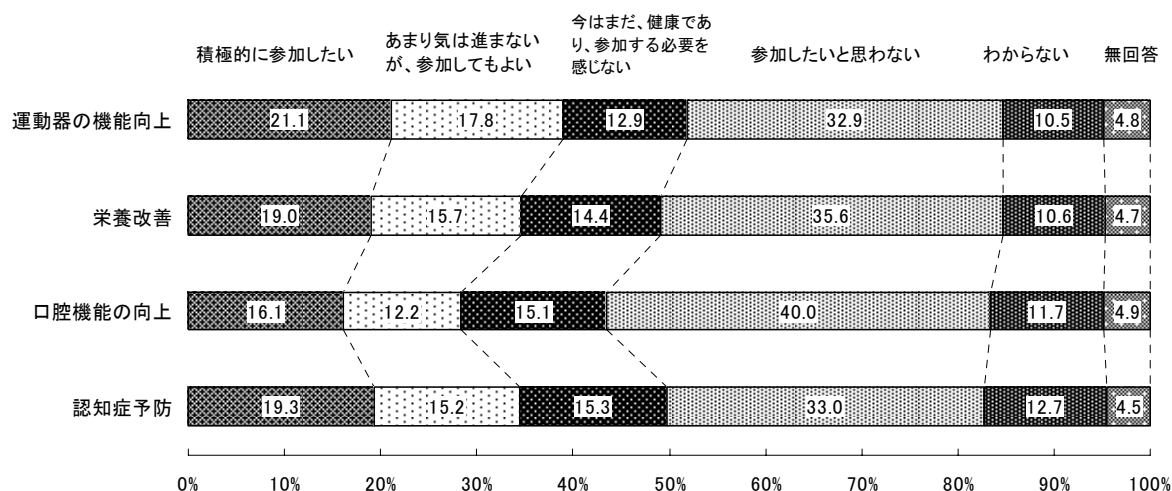
ひとりぐらし高齢者では介護予防サービスの参加意向について、「積極的に参加したい」割合は、全てのメニューで2割前後にとどまった。

介護予防サービス（詳細は第6章の4 介護予防サービスを参照）の参加意向を尋ねたところ、「参加したいと思わない」が全てのメニューにおいて3～4割が「参加したいと思わない」と回答した。また、「積極的に参加したい」割合は2割前後にとどまった。（図12-10）

また、参考ではあるが各メニュー（運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、認知症予防）の「積極的に参加したい」割合を地域別でみると、全てのメニューにおいて、北多摩北部、南多摩、西多摩、区東部地域の割合が高くなっている。（図12-11）

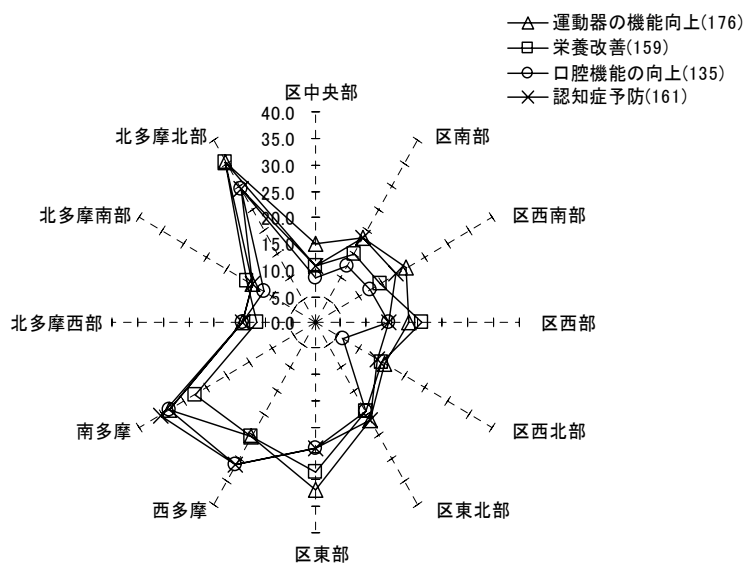
図12-10 介護予防サービスの参考意向

総数＝836人



《参考》

図12-11 介護予防サービスの参考意向(各メニュー)への「積極的に参加したい」割合



5 住宅

(1) 住宅の種類

ひとりぐらし高齢者の住宅は、高齢者全体と比較して持ち家（一戸建て）の割合が低く、民間賃貸住宅の割合が高い。次いで「民間賃貸住宅」が2割強。

住宅の種類は、「持ち家（一戸建て）」が最も多く45.0%、次いで「民間賃貸住宅」が22.7%、「持ち家（分譲マンション等）」が13.4%と続いている。（表12-8）

性・年齢階級別でみると「持ち家（一戸建て）」は、男性の後期高齢者（75歳以上）の割合が59.0%と最も高く、「民間賃貸住宅」は、男性の前期高齢者（65～74歳）の割合が49.6%と最も高い。また、「持ち家（分譲マンション等）」は、女性の前期高齢者（65～74歳）の割合が15.5%と最も高くなっている。

『全数』と比べると「持ち家（一戸建て）」の割合が低く、「民間賃貸住宅」の割合が高い。

表12-8 住宅の種類－性・年齢階級別、全数、12年調査、7年調査との比較

			総 数	持 ち 家 （ 一 戸 建 て ）	持 ち 家 （ 分 譲 マ ン シ ョ ン ）	民 間 賃 貸 住 宅	都 ・ 区 市 町 村 の 公 営 賃 貸 住 宅	都 市 機 構 （ 旧 公 団 ） ・ 公 社 等 の 賃 貸 住 宅	借 家 （ 一 戸 建 て ）	高 齢 者 向 け 住 宅	そ の 他	無 回 答
総数			100.0 (863)	45.0	13.4	22.7	12.9	1.0	1.4	2.0	1.4	0.2
性・年 齢階級 別	男		100.0 (218)	35.8	9.2	38.1	8.7	1.4	－	3.7	2.8	0.5
		65～74歳	100.0 (135)	21.5	8.9	49.6	11.1	2.2	－	3.0	3.0	0.7
		75歳以上	100.0 (83)	59.0	9.6	19.3	4.8	－	－	4.8	2.4	－
	女		100.0 (645)	48.1	14.9	17.5	14.3	0.9	1.9	1.4	0.9	0.2
		65～74歳	100.0 (284)	41.2	15.5	23.2	14.8	1.4	2.5	－	1.1	0.4
		75歳以上	100.0 (361)	53.5	14.4	13.0	13.9	0.6	1.4	2.5	0.8	－
全数			100.0 (4,583)	69.4	10.1	9.0	7.9	1.2	1.2	0.5	0.6	0.2
《参考》	12年調査		100.0 (893)	42.8	10.8	24.4	…	5.7	2.9	1.7	2.1	0.4
	7年調査		100.0 (1,337)	42.4	9.9	20.6	…	6.5	4.2	…	4.7	0.1

（注）「12年調査」の都・区市町村の公営賃貸住宅、「7年調査」の都・区市町村の公営賃貸住宅および高齢者向け住宅は調査していない。

また、主な住宅の種類ごとに最も高い割合を地域別でみると、
「持ち家（一戸建て）」は区西北部 53.8%、
「持ち家（分譲マンション等）」は区中央部 27.1%、
「民間賃貸住宅」は区東北部 33.3%
「都・区市町村の公営賃貸住宅」は北多摩西部 40.0%
となっている。（表 12-9）

表 12-9 住宅の種類－地域別

	総 数	持 ち 家 （一戸建て）	等 持 ち 家 （分譲マンション）	民 間 賃 貸 住 宅	宅 都 ・ 区 市 町 村 の 公 営 賃 貸 住 宅	都 市 機 構 （旧公団）・公 社 の 賃 貸 住 宅	借 家 （一戸建て）	高 齢 者 向 け 住 宅	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (863)	45.0	13.4	22.7	12.9	1.0	1.4	2.0	1.4	0.2
区部 計	100.0 (625)	47.0	13.8	25.9	8.3	0.5	0.8	2.4	1.1	0.2
区中央部	100.0 (48)	50.0	<u>27.1</u>	10.4	2.1	－	4.2	－	4.2	2.1
区南部	100.0 (82)	50.0	9.8	20.7	14.6	－	－	2.4	2.4	－
区西南部	100.0 (91)	45.1	16.5	26.4	9.9	2.2	－	－	－	－
区西部	100.0 (82)	39.0	23.2	24.4	9.8	－	－	1.2	2.4	－
区西北部	100.0 (130)	<u>53.8</u>	10.0	27.7	4.6	0.8	2.3	0.8	－	－
区東北部	100.0 (102)	40.2	4.9	<u>33.3</u>	12.7	－	－	8.8	－	－
区東部	100.0 (90)	50.0	14.4	28.9	3.3	－	－	2.2	1.1	－
市・町・村部 計	100.0 (238)	39.5	12.6	14.3	24.8	2.5	2.9	0.8	2.1	0.4
西多摩	100.0 (64)	17.2	3.1	10.9	12.5	4.7	－	－	1.6	－
南多摩	100.0 (54)	50.0	13.0	14.8	11.1	1.9	5.6	－	3.7	－
北多摩西部	100.0 (35)	28.6	17.1	11.4	<u>40.0</u>	－	2.9	－	－	－
北多摩南部	100.0 (81)	39.5	8.6	13.6	28.4	1.2	3.7	2.5	2.5	－
北多摩北部	100.0 (36)	38.9	22.2	11.1	22.2	2.8	－	－	－	2.8

(2) 住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向

ひとりぐらし高齢者は、住宅の住み替えを行いたい割合が1割。

今後の住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向は、「リフォーム・建て替え・住み替えは行わない」が最も多く61.4%、次いで「住み替えを行いたい」10.1%、「リフォームや建て替えを行いたい」が6.4%となっている。(図 12-12)

『全数』と比べると「住み替えを行いたい」が4.4ポイント高い。

性・年齢階級別でみると「住み替えを行いたい」は、男性の前期高齢者（65～74歳）の割合が19.3%と最も高い。(表 12-10)

図 12-12 住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向－全数との比較

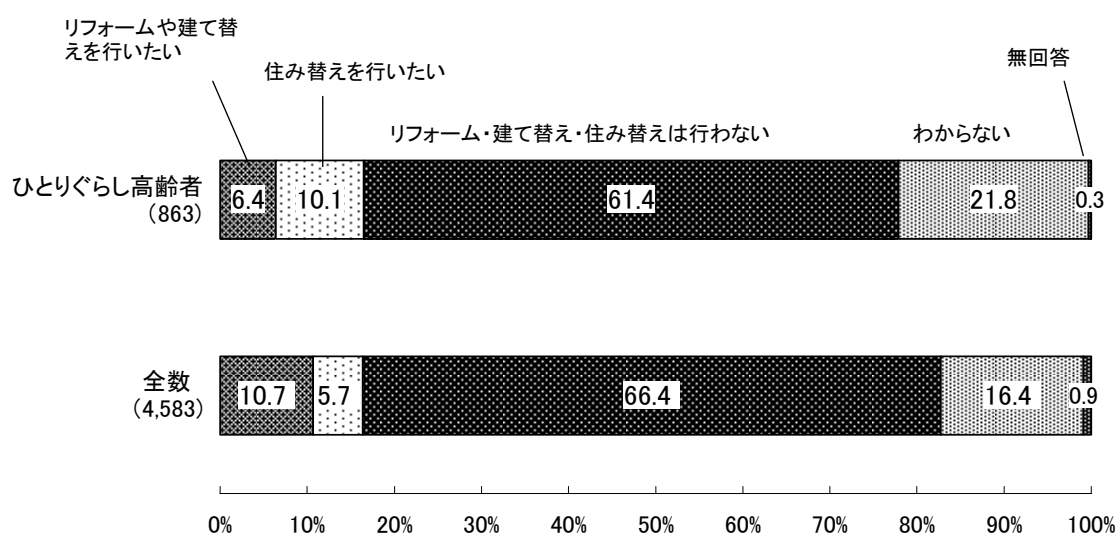


表 12-10 住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向－性・年齢階級別

		総数	リフォームや建て替えを行いたい	住み替えを行いたい	リフォーム・建て替え・住み替えは行わない	わからない	無回答
総数		100.0 (863)	6.4	10.1	61.4	21.8	0.3
性・年齢階級別	男	100.0 (218)	3.7	16.1	55.0	24.3	0.9
	65～74歳	100.0 (135)	4.4	19.3	44.4	30.4	1.5
	75歳以上	100.0 (83)	2.4	10.8	72.3	14.5	—
	女	100.0 (645)	7.3	8.1	63.6	20.9	0.2
	65～74歳	100.0 (284)	8.8	12.0	55.3	23.6	—
	75歳以上	100.0 (361)	6.1	5.0	70.1	18.8	—

(3) 介護が必要になった場合に望む対応

ひとりぐらし高齢者は、介護が必要になった場合「自宅で介護サービス等を利用したい」と希望する割合が高齢者全体と比較して高い。

ひとりぐらし高齢者自身に介護が必要になった場合、どのような対応を望むのかを尋ねたところ、「自宅で、介護サービス等を利用したい」が25.4%で最も多く、『全数』よりも10.3ポイント高くなっている。(図12-13)

性別でみると自宅での対応を希望する人は、男性よりも女性の割合が高く、「介護を目的とする高齢者福祉施設に入りたい」は、女性よりも男性の割合が高い。(表12-11)

図12-13 介護が必要になった場合に望む対応－全数との比較

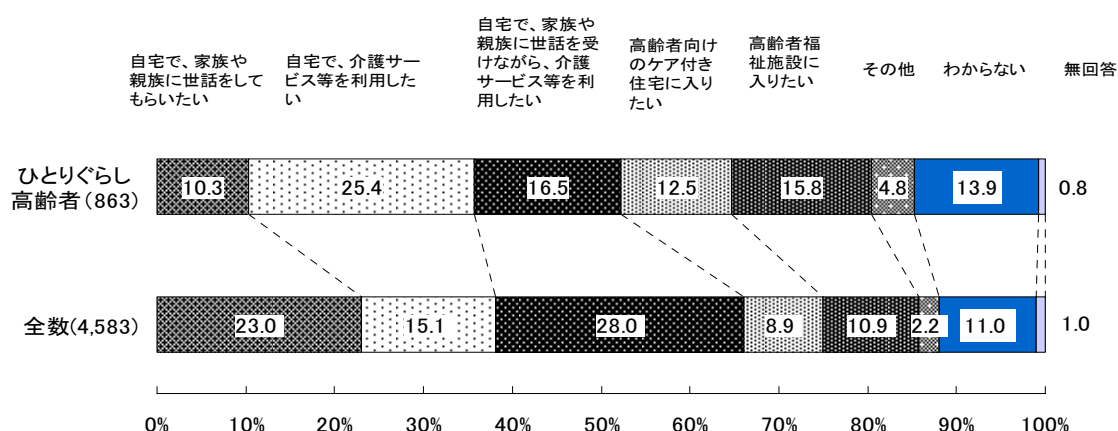


表12-11 介護が必要になった場合に望む対応－性・年齢階級別

		総数	自宅で、家族や親族に世話をもらいたい	自宅で、介護サービス等を利用したい	自宅で、家族や親族に世話を受けながら、介護サービス等を利用したい	子どもや親族等との家に移って、世話を親族等してもらいたい	子どもや親族等を利用しながら、介護サービス等を利用したい	子どもや親族等を利用しながら、介護サービス等を利用したい	日常生活上必要となる高齢者向けのケアが受けられたい	介護を目的とする高齢者福祉施設に入りたい	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (863)	10.3	25.4	16.5	1.5	2.4	12.5	15.8	0.9	13.9	0.8	
性・年齢階級別	男	100.0 (218)	7.8	19.3	11.0	1.8	2.8	13.8	19.7	1.8	21.1	0.9	
		65～74歳	100.0 (135)	3.0	21.5	6.7	1.5	3.0	23.0	1.5	25.2	0.7	
		75歳以上	100.0 (83)	15.7	15.7	18.1	2.4	2.4	13.3	2.4	14.5	1.2	
	女	100.0 (645)	11.2	27.4	18.3	1.4	2.3	12.1	14.4	0.6	11.5	0.8	
		65～74歳	100.0 (284)	8.1	25.7	15.1	2.1	1.8	15.5	0.4	13.0	0.7	
		75歳以上	100.0 (361)	12.2	27.0	10.4	2.6	2.6	16.5	-	8.7	1.7	

6 就業・経済

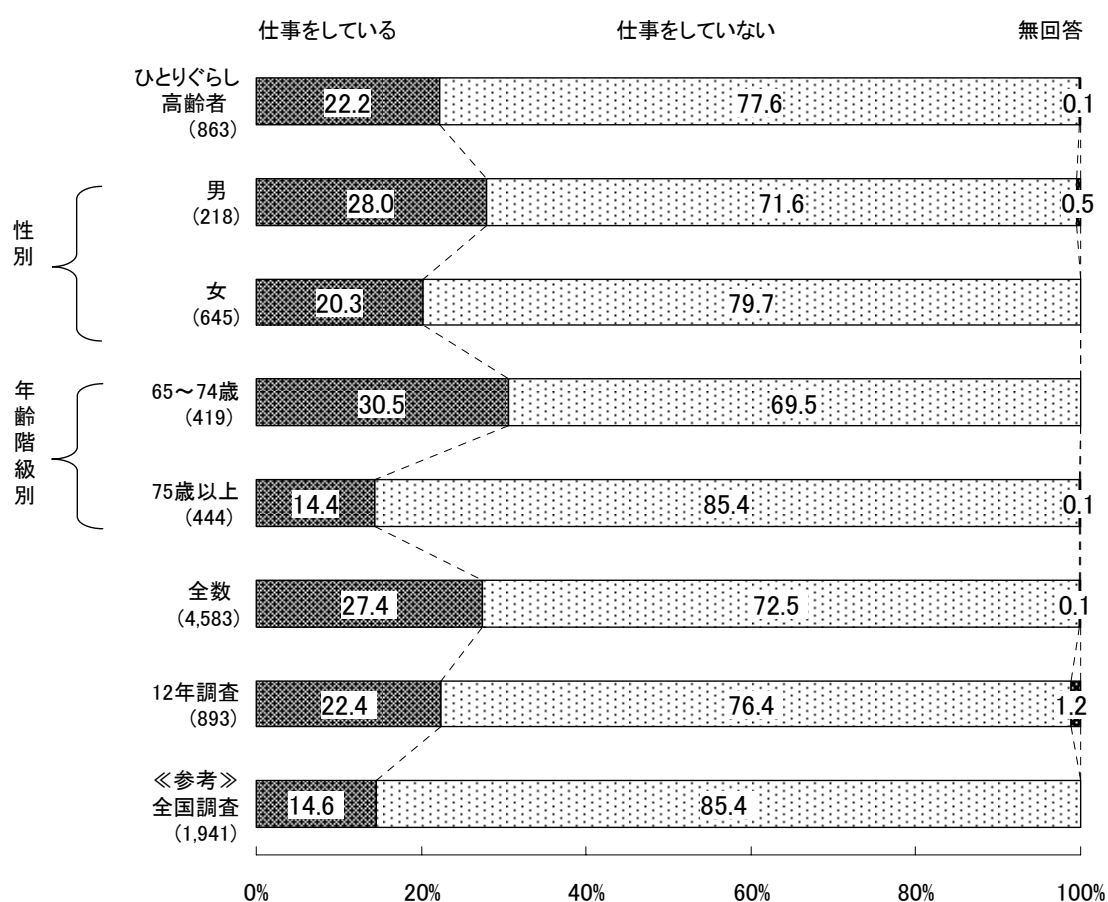
(1) 就業状況

ひとりぐらし高齢者は、仕事をしている割合が高齢者全体と比べて低い。

ひとりぐらし高齢者に現在収入のある仕事をしているかを尋ねたところ、「仕事をしている」割合が22.2%、「仕事をしていない」割合は77.6%であった。(図12-14)

『全数』と比べると「仕事をしている」は、5.2ポイント低いが、参考までに「全国調査」と比較すると、「仕事をしている」は、本調査が7.6ポイント高くなっている。

図12-14 収入のある仕事の有無一性、年齢階級別、全数、12年調査との比較



(注1) 全国調査は、内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」(平成14年)による。

調査対象者は、全国65歳以上の男女。

(2) 就業の内容

ひとりぐらし高齢者の就業内容は、高齢者全体と比較して臨時・パートの割合が高く、3割弱。

ひとりぐらし高齢者に収入のある仕事を尋ねたところ、「自営業」が46.9%と最も多く、次いで「臨時・パート」27.6%、「常勤の被雇用者」9.9%と続いている。(図 12-15)

『全数』と比べると「臨時・パート」の割合が10.5ポイント高くなっている。

性・年齢階級別でみると「臨時・パート」は男性よりも女性が高く、特に前期高齢者（75歳以上）の割合が40.0%と高くなっている。(表 12-12)

図 12-15 就業の内容－全数との比較

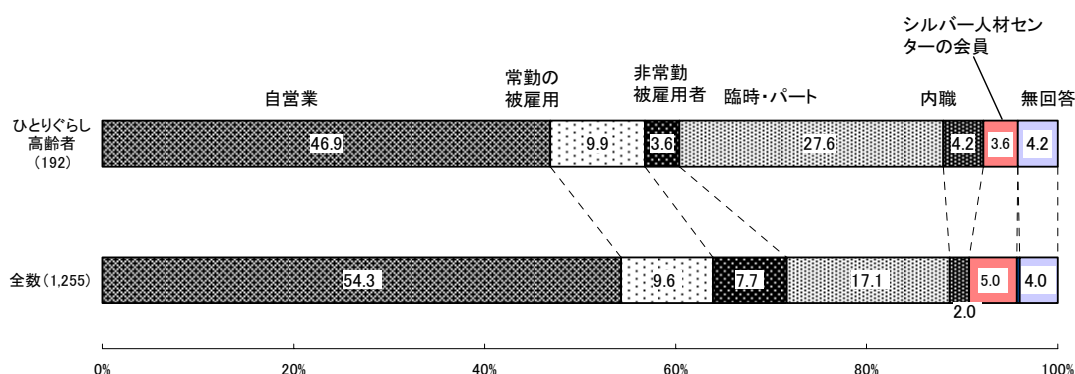


表 12-12 就業の内容－性・年齢階級別

			総数	自営業 (家族従業員含む)	常勤の被雇用者	非常勤でない被雇用者	臨時・パート	内職	シルバー人材センターの会員	無回答
総数			100.0 (192)	46.9	9.9	3.6	27.6	4.2	3.6	4.2
性・年齢階級別	男		100.0 (61)	50.8	16.4	1.6	<u>21.3</u>	—	4.9	4.9
		65～74歳	100.0 (38)	36.8	18.4	2.6	28.9	—	5.3	—
		75歳以上	100.0 (23)	73.9	13.0	—	8.7	—	4.3	—
	女		100.0 (131)	45.0	6.9	4.6	<u>30.5</u>	6.1	3.1	3.8
		65～74歳	100.0 (90)	36.7	6.7	3.3	<u>40.0</u>	5.6	4.4	3.3
		75歳以上	100.0 (41)	63.4	7.3	7.3	9.8	7.3	—	4.9

(3) 就業理由

ひとりぐらし高齢者の就業理由は「収入を得たいから」が最も多く 6 割半ば。

収入のある仕事をしている理由をみると、「収入を得たいから」が最も多く 65.1%、次いで「健康に良いから」が 46.4%、「生きがいを得たいから」が 40.6%と続いている。

(表 12-13)

収入のある仕事の内容別でみると、自営業は「生きがいを得たいから」が 5 割 (50.0%) と高くなっている。

前回調査 (12 年) と比べると「健康に良いから」の割合が 8.9 ポイント増加している。

表 12-13 就業理由－性・年齢階級、収入のある仕事の内容別、全数、12 年調査との比較

		総 数	収 入 を 得 た い か ら	健 康 に 良 い か ら	生 持 っ て い る か 能 力 を	か ら 生 き が い を 得 た い	い 社 か の 役 に 立 ち た	い 社 会 と つ な が つ て	友 人 が ほ し い か ら	と 何 も 屈 し な い で い る	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (192)	65.1	46.4	30.7	40.6	18.2	22.4	6.3	23.4	4.7	4.2
性・年齢階級	男	100.0 (61)	65.6	44.3	23.0	39.3	19.7	19.7	6.6	18.0	8.2	6.6
	65～74歳	100.0 (38)	78.9	36.8	23.7	34.2	18.4	13.2	7.9	15.8	5.3	10.5
	75歳以上	100.0 (23)	43.5	56.5	21.7	47.8	21.7	30.4	4.3	21.7	13.0	－
	女	100.0 (131)	64.9	47.3	34.4	41.2	17.6	23.7	6.1	26.0	3.1	3.1
	65～74歳	100.0 (90)	66.7	48.9	33.3	41.1	16.7	24.4	6.7	25.6	2.2	4.4
	75歳以上	100.0 (41)	61.0	43.9	36.6	41.5	19.5	22.0	4.9	26.8	4.9	－
収入のある仕事の内容別	自営業(家族従業者含む)	100.0 (90)	60.0	43.3	36.7	50.0	17.8	21.1	5.6	18.9	5.6	2.2
	常勤の被雇用者	100.0 (19)	84.2	57.9	36.8	21.1	－	21.1	10.5	15.8	10.5	－
	常勤でない被雇用者	100.0 (7)	28.6	28.6	14.3	28.6	－	28.6	－	42.9	14.3	14.3
	臨時・パート	100.0 (53)	75.5	49.1	22.6	37.7	30.2	28.3	7.5	32.1	1.9	1.9
	内職	100.0 (8)	50.0	25.0	62.5	37.5	12.5	－	－	25.0	－	－
	シルバー人材センターの会員	100.0 (7)	85.7	100.0	－	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	－	－
全数		100.0 (1,255)	64.7	46.9	34.7	38.8	22.7	23.4	8.0	23.8	5.3	4.5
《参考》12年調査		100.0 (200)	67.5	37.5	30.0	44.5	24.0	...	10.0	20.5	5.5	－

(注)『全数』は高齢者全体のうち、収入のある仕事をしている 1,255 人。

(4) 年収

ひとりぐらし高齢者の年収は、100 万円以上 200 万未満の割合が 4 割弱。

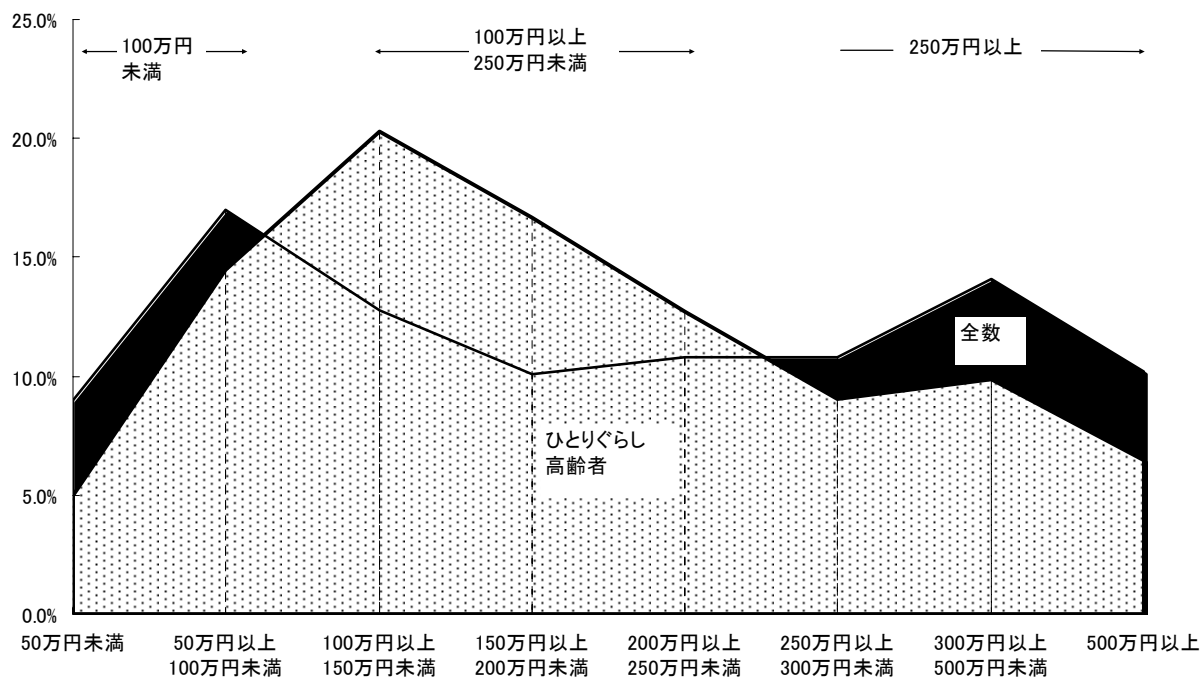
ひとりぐらし高齢者本人の年収（税込み）について尋ねたところ「100 万円以上 150 万円」が最も多く 20.3%、次いで「150 万円以上 200 万円未満」の割合が 16.7%と続いている。この階級を合わせた 100 万円以上 200 万円未満の割合は 37.0%となっており、『全数』よりも 14.1 ポイント高くなっている。（表 12-14）

表 12-14 年収一性・年齢階級、収入のある仕事の有無別、全数、12 年調査、7 年調査との比較

		総 数	5 0 万 円 未 満	1 5 0 0 万 円 以 上 未 満	1 1 5 0 万 円 未 満	2 1 0 5 万 円 未 満	2 2 5 0 万 円 未 満	3 2 0 5 万 円 未 満	5 3 0 0 万 円 未 満	5 0 万 円 以 上	無 回 答	
総数		100.0 (863)	5.0	14.5	<u>20.3</u>	<u>16.7</u>	12.7	9.0	9.8	6.5	5.4	
					37.0		21.7					
性・年齢階級別	男		100.0 (218)	4.6	8.3	22.0	12.4	11.0	12.4	13.3	10.1	6.0
		65～69歳	100.0 (68)	4.4	8.8	29.4	10.3	14.7	11.8	10.3	5.9	4.4
		70～74歳	100.0 (67)	6.0	11.9	22.4	20.9	7.5	6.0	11.9	7.5	6.0
		75～79歳	100.0 (45)	4.4	4.4	20.0	11.1	8.9	15.6	13.3	15.6	6.7
		80～84歳	100.0 (22)	—	4.5	9.1	4.5	13.6	18.2	27.3	13.6	9.1
		85歳以上	100.0 (16)	6.3	6.3	12.5	—	12.5	25.0	12.5	18.8	6.3
	女		100.0 (645)	5.1	16.6	19.7	18.1	13.3	7.9	8.7	5.3	5.3
		65～69歳	100.0 (115)	6.1	13.0	14.8	22.6	14.8	8.7	9.6	6.1	4.3
		70～74歳	100.0 (169)	4.1	14.8	26.0	18.9	10.7	6.5	10.1	4.1	4.7
		75～79歳	100.0 (173)	5.8	19.1	16.2	16.2	16.2	9.2	6.9	5.8	4.6
		80～84歳	100.0 (111)	4.5	18.9	20.7	18.0	12.6	4.5	11.7	4.5	4.5
		85歳以上	100.0 (77)	5.2	16.9	19.5	14.3	11.7	11.7	3.9	6.5	10.4
収入のある 無収入の 有無別	仕事をしている	100.0 (192)	3.6	8.9	10.4	9.4	9.9	14.6	21.9	16.1	5.2	
	仕事をしていない	100.0 (670)	5.4	16.1	23.0	18.8	13.6	7.5	6.4	3.7	5.5	
全数		100.0 (4,583)	9.0	17.0	<u>12.8</u>	<u>10.1</u>	10.8	10.8	14.1	10.2	5.1	
					22.9		21.6					
12年調査		100.0 (893)	2.8	15.9	35.5		23.3		12.0	7.1	3.5	
7年調査		100.0 (1,337)	7.7	17.1	35.9		20.3		8.8	6.4	3.8	

また、年収階級毎に『全数』との比較をしてみると、100 万円以上 250 万円未満の階級は『全数』よりも割合が高く、100 万円未満および 250 万円以上の階級は『全数』よりも割合が低い。(図 12-16)

図 12-16 年収－全数との比較



(5) 年収の種類

ひとりぐらし高齢者の年収の種類は、高齢者全体と比較して生活保護の割合が高い。

収入の種類は「公的な年金・恩給」が88.2%である。(表12-15)

『全数』と比べると「生活保護」の割合が7ポイント高く、特に女性の割合(6.0%)よりも男性の割合(18.3%)が高いのが目立つ。

表 12-15 年収の種類－性・年齢階級別、全数、12年調査との比較

		総 数	恩 給 公 的 な 年 金 ・	私 的 な 年 金	入 仕 事 に よ る 収	配 家 賃 ・ 地 代 ・	仕 送 り	手 当	生 活 保 護	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (863)	<u>88.2</u>	10.7	21.8	11.8	3.1	0.5	<u>9.2</u>	0.3	0.8
性・年齢階級別	男	100.0 (218)	76.1	11.5	28.4	10.1	0.9	0.5	<u>18.3</u>	－	1.8
	65～69歳	100.0 (68)	70.6	8.8	36.8	4.4	1.5	1.5	20.6	－	2.9
	70～74歳	100.0 (67)	65.7	6.0	23.9	7.5	－	－	26.9	－	1.5
	75～79歳	100.0 (45)	80.0	13.3	31.1	17.8	2.2	－	15.6	－	2.2
	80～84歳	100.0 (22)	100.0	13.6	18.2	13.6	－	－	4.5	－	－
	85歳以上	100.0 (16)	100.0	37.5	18.8	18.8	－	－	－	－	－
	女	100.0 (645)	92.2	10.4	19.5	12.4	3.9	0.5	<u>6.0</u>	0.5	0.5
	65～69歳	100.0 (115)	87.8	19.1	41.7	8.7	1.7	1.7	6.1	0.9	0.9
	70～74歳	100.0 (169)	89.3	10.7	23.7	9.5	2.4	0.6	8.3	0.6	－
	75～79歳	100.0 (173)	94.2	9.2	12.7	17.9	3.5	－	4.0	0.6	1.2
	80～84歳	100.0 (111)	95.5	7.2	10.8	12.6	5.4	－	7.2	－	－
	85歳以上	100.0 (77)	96.1	3.9	5.2	11.7	9.1	－	3.9	－	－
全数		100.0 (4,583)	92.4	11.8	26.8	12.8	1.5	0.4	<u>2.2</u>	0.1	1.7
《参考》12年調査		100.0 (893)	87.7	...	22.8	13.7	4.3	1.6	6.6	1.5	－

7 社会参加と意識

(1) 外出の頻度

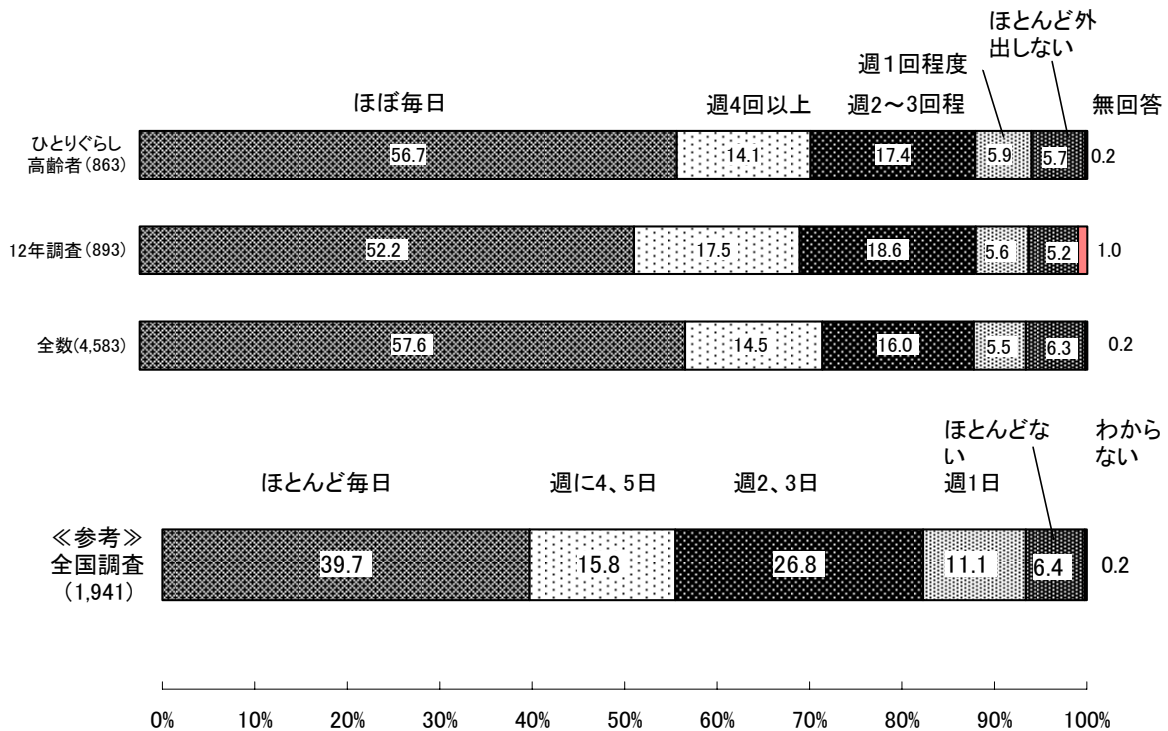
ひとりぐらし高齢者の外出の頻度は、「ほぼ毎日」の割合が前回調査（12年）よりも増加。

ひとりぐらし高齢者に通常どのくらいの頻度で外出するのかを尋ねたところ、「ほぼ毎日」外出と答えた人が56.7%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が17.4%と続く。（図12-17）

前回調査（12年）と比べると「ほぼ毎日」は4.5ポイント増加した。

参考までに全国調査と比べると、毎日外出する割合は、都のひとりぐらし高齢者の割合が高くなっている。

図12-17 外出の頻度－全数、12年調査、全国調査との比較



（注1）全国調査は、内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成14年）による。
調査対象者は、全国65歳以上の男女。

(2) 近所づきあいの程度

ひとりぐらし高齢者の近所づきあいの程度は「お互いに訪問し合う人がいる」割合が高齢者全体と比較して高く、3割強。

近所づきあいの程度について尋ねたところ、「お互いに訪問し合う人がいる」の割合が32.0%と最も高く、『全数』と比べて5.9ポイント高い。(表12-16)

性・年齢階級別でみると「お互いに訪問し合う人がいる」は、女性の後期高齢者(75歳以上)の割合が最も高く4割(41.0%)を超えている。一方「つきあいがいない」は、男性の前期高齢者(65歳～74歳)の割合が最も高く3割近い(29.6%)。

表12-16 近所づきあいの程度－性・年齢階級、動作能力類型別、全数、12年調査との比較

			総 数	合 お う 互 人 い が に 訪 問 し	度 立 の 人 話 を す る 程	程 あ い さ つ を す る	つ き あ い が な い	無 回 答
総数			100.0 (863)	<u>32.0</u>	29.7	26.3	11.7	0.3
性・年 齢階 級別	男		100.0 (218)	13.8	25.7	34.4	25.7	0.5
		65～74歳	100.0 (135)	11.9	23.7	34.1	<u>29.6</u>	0.7
		75歳以上	100.0 (83)	16.9	28.9	34.9	19.3	－
	女		100.0 (645)	38.1	31.0	23.6	7.0	0.3
		65～74歳	100.0 (284)	34.5	32.4	26.1	6.7	0.4
		75歳以上	100.0 (361)	<u>41.0</u>	29.9	21.6	7.2	0.3
動作 能力 類型 別	ねたきり等の高齢者		100.0 (72)	26.4	15.3	27.8	29.2	1.4
	比較的重い障害のある高齢者		100.0 (22)	40.9	22.7	22.7	13.6	－
	軽い障害のある高齢者		100.0 (171)	38.0	28.7	19.9	13.5	－
	障害のない高齢者		100.0 (598)	30.6	31.9	28.1	9.0	0.3
全数			100.0 (4,583)	<u>26.1</u>	37.4	28.1	8.2	0.3
12年調査			100.0 (893)	30.6	31.0	26.9	10.8	0.8

(3) 1年間に行った活動

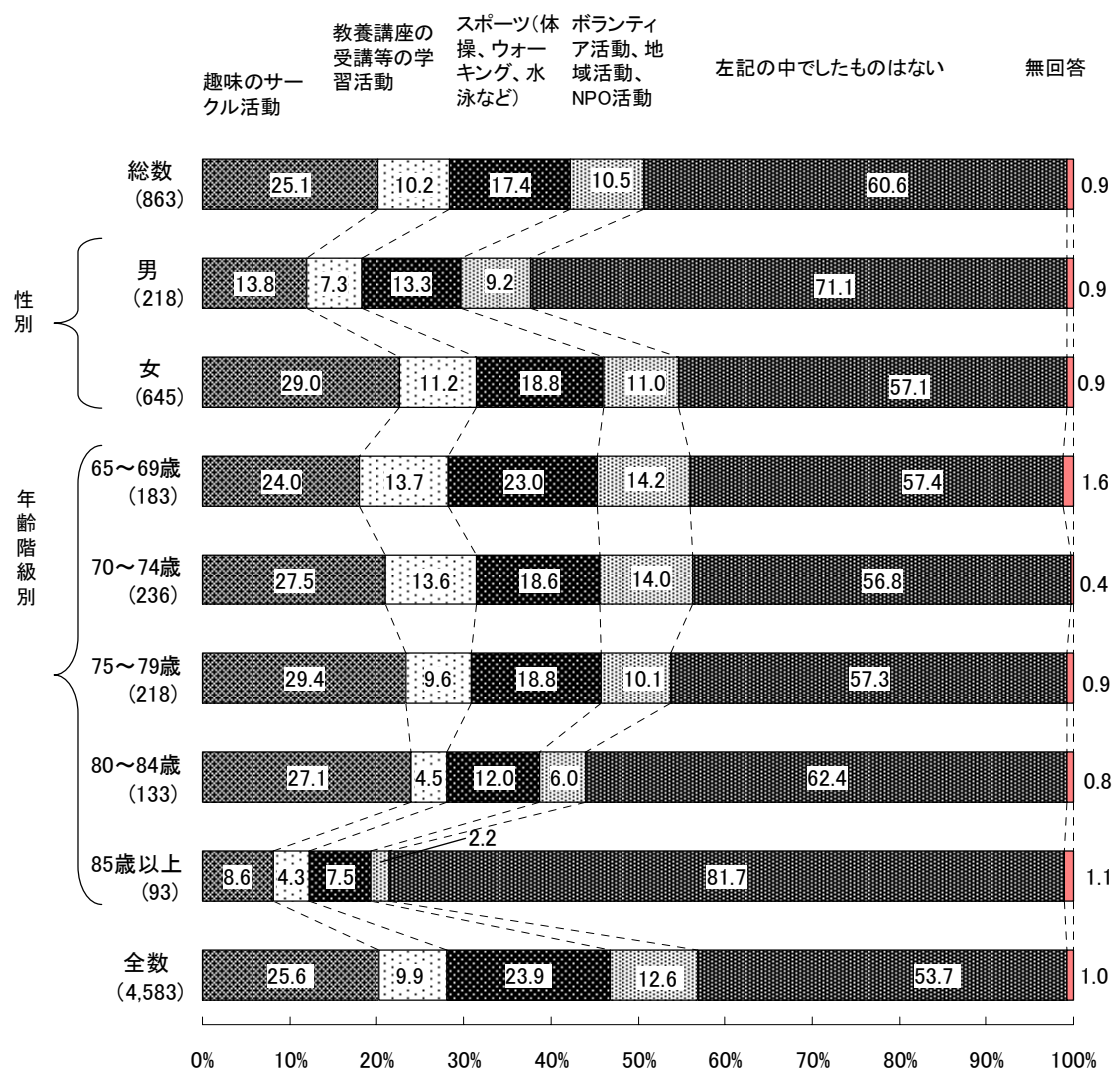
ひとりぐらし高齢者が1年間に行った活動は「趣味のサークル活動」が最も多く、女性の割合は3割弱。

1年間に行った活動は、「趣味のサークル」が25.1%で最も多く、次いで「スポーツ（体育、ウォーキング、水泳など）」17.4%と続いている。（図12-18）

性別でみると、「趣味のサークル」は男性よりも女性の割合が15.2ポイント高い。

『全数』と比べると、「スポーツ（体操、ウォーキング、水泳など）」の割合が6.5ポイント低い。

図12-18 1年間に行った活動－性、年齢階級別、全数との比較



(4) 心配ごとや悩みごとの内容

ひとりぐらし高齢者の2人に1人が心配ごとや悩みごとは「自分の健康・病気」と回答。

ひとりぐらし高齢者に現在心配ごとや悩みごとがあるかどうか尋ねたところ「自分の健康・病気が50.5%と最も多く、過半数を超えている。(表12-17)

性・年齢階級別でみると「世話をしてくれる人がいない」「頼れる人がいなくて、一人きりである」は女性よりも男性の割合が高いのが目立つ。

動作能力類型別でみると「自分の健康・病気」は、ねたきり等の高齢者が68.1%と最も高い。

表12-17 心配ごとの内容(複数回答)―性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

		総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	世話をしてくれる人がいない	頼れる人がいなくて、一人きりである	地域の人たちとの関係	家計が苦しい	社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震等の災害にあうこと	生活のことに先立たれた後の配偶者	自分の死後の配偶者や子どもの将来	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答
総数		100.0 (863)	<u>50.5</u>	6.8	4.1	9.0	<u>8.2</u>	0.8	7.2	11.8	8.0	3.4	3.6	6.6	14.9	0.5	2.9	2.3	32.4	1.2
性・年齢階級別	男	100.0 (218)	53.7	7.8	3.7	<u>12.4</u>	<u>11.5</u>	0.9	8.7	12.8	8.3	7.8	2.8	4.1	9.2	1.4	3.7	3.7	26.6	1.4
	65～74歳	100.0 (135)	51.9	4.4	4.4	14.8	14.8	1.5	11.1	14.8	12.6	9.6	3.7	3.0	7.4	1.5	3.0	3.7	25.9	1.5
	75歳以上	100.0 (83)	56.6	13.3	2.4	8.4	6.0	－	4.8	9.6	1.2	4.8	1.2	3.6	12.0	1.2	4.8	3.6	27.7	1.2
	女	100.0 (645)	49.5	6.5	4.2	<u>7.9</u>	<u>7.1</u>	0.8	6.7	11.5	7.9	1.9	3.9	7.4	16.9	0.2	2.6	1.9	34.4	1.1
	65～74歳	100.0 (284)	48.6	8.1	3.9	6.7	7.4	1.4	9.2	17.6	12.7	3.9	3.2	9.9	22.2	0.4	3.9	2.5	30.6	－
	75歳以上	100.0 (83)	56.6	13.3	2.4	8.4	4.8	－	4.8	9.6	1.2	4.8	1.2	6.0	12.0	1.2	4.8	3.6	27.7	1.2
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (72)	<u>68.1</u>	9.7	4.2	8.3	6.9	1.4	4.2	12.5	5.6	－	1.4	5.6	11.1	－	1.4	－	20.8	4.2
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (22)	54.5	4.5	－	9.1	9.1	－	－	－	13.6	－	－	－	9.1	－	－	4.5	36.4	－
	軽い障害のある高齢者	100.0 (171)	57.3	5.3	4.1	12.3	9.4	0.6	9.4	14.6	6.4	0.6	2.9	7.6	11.7	－	1.8	3.5	26.9	2.3
	障害のない高齢者	100.0 (598)	46.3	7.0	4.2	8.2	8.0	0.8	7.2	11.4	8.5	4.7	4.2	6.7	16.6	0.7	3.5	2.2	35.3	0.5
全数		100.0 (4,583)	46.6	30.9	4.9	2.9	<u>1.8</u>	1.3	5.7	12.8	5.4	2.8	2.6	6.3	17.7	9.3	10.2	1.2	31.9	1.5

(5) 相談相手

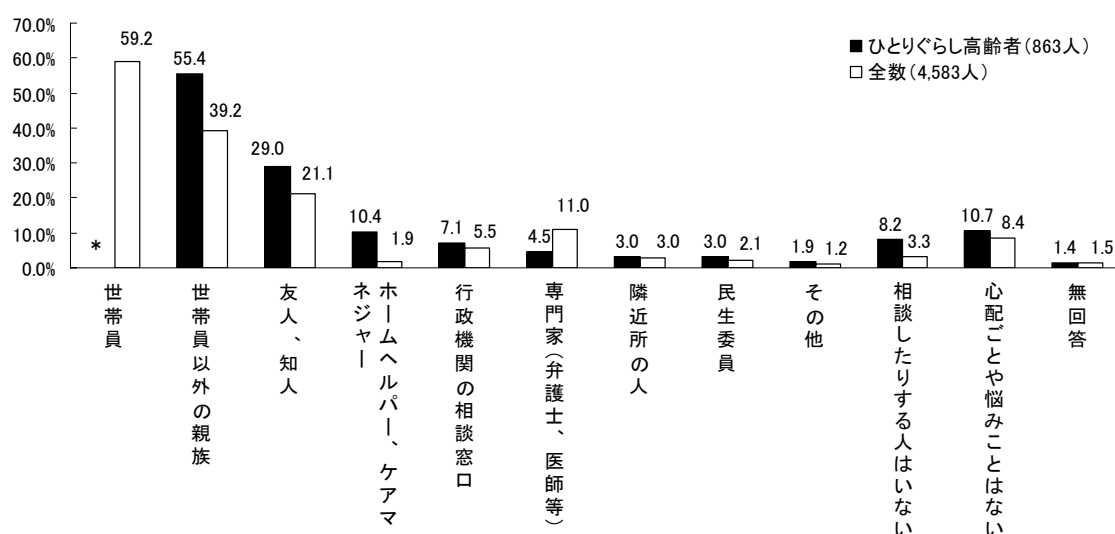
ひとりぐらし高齢者の心配ごとや悩みごとの相談相手は「世帯員以外の親族」が最も多い。

心配ごとや悩みごとの相談相手は「世帯員以外の親族」が 55.4%と最も多く、次いで「友人、知人」29.0%、「ホームヘルパー、ケアマネジャー」が 10.4%と続いている。(図 12-19)

『全数』と比較すると「世帯員以外の親族」が 16.2 ポイント、「友人、知人」は 7.9 ポイント、「ホームヘルパー、ケアマネジャー」は 8.5 ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢階級別でみると「友人、知人」は、女性の前期高齢者、「相談したりする人はいない」の割合は、男性の前期高齢者の割合が高いのが目立つ。(表 12-18)

図 12-19 心配ごとや悩みごとの相談相手－全数との比較



(注) *ひとりぐらし高齢者に世帯員はいない。

表 12-18 心配ごとや悩み事の相談相手－性・年齢階級別

		総数	世帯員以外の親族	友人、知人	隣近所の人	行政機関の相談窓口	民生委員	ホームヘルパー、ケアマネジャー	専門家(弁護士、医師等)	その他	相談したりする人はいない	心配ごとや悩みごとはない	無回答
総数		100.0 (863)	55.4	29.0	4.5	7.1	3.0	3.0	10.4	1.9	8.2	10.7	1.4
性・年齢階級別	男	100.0 (218)	44.5	22.0	1.8	10.1	4.6	3.2	14.2	2.3	14.2	10.1	1.4
		65～74歳 (135)	35.6	25.2	2.2	10.4	5.2	3.0	16.3	3.7	16.3	10.4	0.7
		75歳以上 (83)	59.0	16.9	1.2	9.6	3.6	3.6	10.8	—	10.8	9.6	2.4
	女	100.0 (645)	59.1	31.3	5.4	6.0	2.5	2.9	9.1	1.7	6.2	10.9	1.4
		65～74歳 (284)	54.2	42.6	6.7	9.2	3.5	0.4	10.2	2.8	7.0	9.2	0.4
		75歳以上 (361)	62.9	22.4	4.4	3.6	1.7	5.0	8.3	0.8	5.5	12.2	2.2

8 高齢者に対する必要な施策や支援

ひとりぐらし高齢者は高齢者全体と比較して、「ひとりぐらし高齢者への支援」「高齢者向け住宅の充実」の施策や支援を必要とする割合が高い。

大切だと思う施策や支援については「介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」が57.9%で最も多く、次いで「ひとりぐらし高齢者への支援」が53.0%、「年金や医療等、国の社会保障制度の充実」が46.3%と続いている。（図 12-20）

『全数』と比べると「ひとりぐらし高齢者への支援」「高齢者向け住宅の充実」の割合が高くなっている。

図 12-20 高齢者に対する必要な施策や支援（複数回答）－全数との比較

